入院例

yu

多摩　丘子　様

患者紹介	社会的背景
63歳　女性 診断名：脳出血 現病歴：X年Y月Z日　左被殻出血の診断にて急性期	●●市に夫と二人暮らし，夫は自宅におり介護可能．近くに住む次男が援助．戸建持家（二階建て）．

多摩丘陵リハビリテーション病院　入院から退院までの流れ

入院相談 ／ 当院へ転院 → 退院

	発症2週間後	発症3週間後	入院3日目	入院1週間後	入院3週間後	入院1ケ月後	入院後5週目	入院2カ月後	入院2カ月+1週間後	入院3カ月後	入院3カ月+2週間後	入院4カ月後		入院4カ月+1週間後	入院4カ月+1週間後	入院5カ月+1週間後
リハ進捗	入院時 申し込み	多摩丘陵 リハビリテーション病院入院	入院時訪合同評価	入院時訪問指導	移乗自立	トイレ自立	第1回 リハビリカンファレンス				第2回 リハビリカンファレンス			試験外泊	第3回 リハビリカンファレンス	
実施項目	理学療法,作業療法 言語聴覚療法		入院時合同評価実施	入院時訪問指導実施			第1回 リハビリカンファレンス実施	言語聴覚療法終了 個室浴訓練開始	プラスチック下肢 装具作製	生活関連動作 訓練開始	第2回 リハビリカンファレンス実施	装具+1本杖歩行での 日常生活動作	退院前	自宅への試験外泊	第3回 リハビリカンファレンス実施	自宅退院
詳細	自宅内歩行レベルでの基本的日常生活動作自立を目標に，入院日よりリハビリ開始する		リハビリカンファレンスまでに立位不安定・動作性急さあるが，移乗バー設置して移乗チェック,自立を目標とする更衣訓練も進め，お１人での実施も目標とする	担当療法士が自宅を訪問して、有効なリハビリテーション計画を立てるために、住環境や周辺の屋外などの生活環境の評価を実施	ベッド移乗動作を看護師によるチェック期間を設け、安全に行うことが出来た為、自立となる。	トイレ動作を看護師によるチェック期間を設け、安全に行うことが出来た為、自立となる	カンファレンスにより、右片麻痺は重度な為、利き手交換含め非麻痺側の効率的な使用による日常生活自立、調理の一部可能を目標にリハビリを進めるよう方針を決定。 また、障害に対し受容途中な為、傾聴見守っていく。	作業療法にて個室入浴の練習を6回実施．環境を整えることで自立可能と判断するが、本人の希望もあり個室浴訓練を中止し自立	屋内・屋外兼用の下肢装具を作製。 採型・仮合わせを経て、２週間後に完成	作業療法にて生活関連 動作訓練（調理・掃除）を実施	屋内つたい・装具自立歩行、屋外杖・装具見守り歩行での自宅内の日常生活動作自立、調理等は一部参加を目指す。 入院4か月から外泊訓練を行っていき、入院から5か月での退院を目標とする。	看護師の付き添いでの自室ートイレ間歩行から開始し、病棟内歩行自立となる。	地域包括支援センター担当ケアマネージャーとともに自宅を訪問し,本人・夫と家屋改修について検討。室内と玄関の手すり設置が定し、階段や玄関アローチ部分は退院後再度検討とした。 屋内移動は，杖および伝い歩きで行い，階段等は家族による一部介助で	夫、息子と共に4回に渡し、自宅に外泊，初回は手すり未設置のため入浴は介助，他日常生活動作は自立，最後の外泊では手すり設置完了し、浴槽に入ることが出来たと報告あり。	自宅外泊では自宅内移動・入浴等大きな問題なく可能であった。自宅内の改修（手すり）は提案済み。退院後は通所リハビリを利用する方針。	身体状況について受容途中であり、今後の不安も強いが、歩行での日常生活動作が自立し、生活関連動作も一部可能となり、自宅退院となる。
対応者			看護師 リハビリテーションスタッフ 社会福祉士 管理栄養士,薬剤師	理学療法士 作業療法士			医師,看護師, リハスタッフ 社会福祉士 管理栄養士				医師,看護師 リハビリスタッフ 社会福祉士,管理栄養士		リハビリスタッフ 社会福祉士 ケアマネジャー 住宅改修業者		医師,看護師, リハビリスタッフ 社会福祉士	